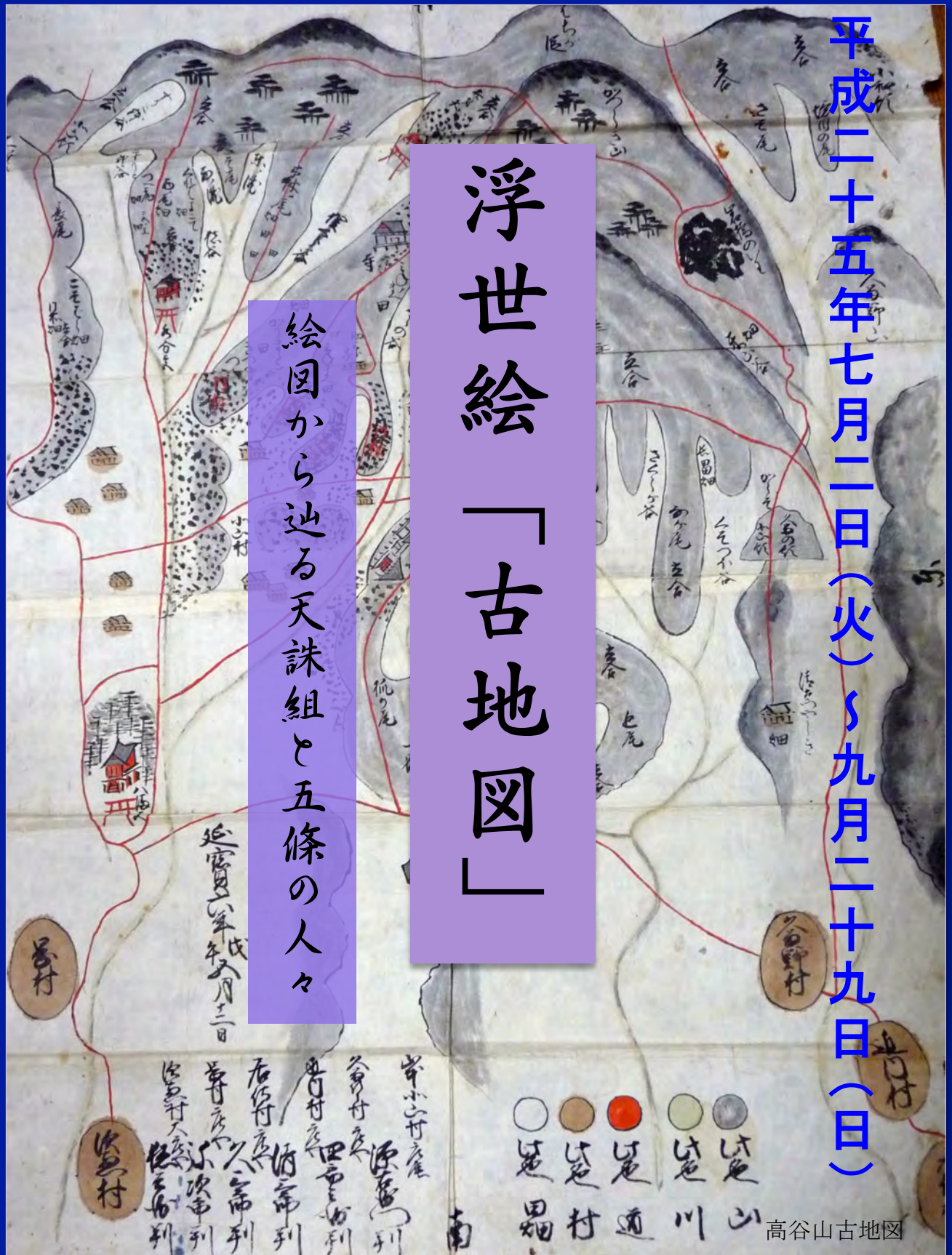


藤岡家が管理していた三本の金剛山越えの道。それ以外の道を使って彼らは五條に入った。



浮世絵「古地図」

絵図から辿る天誅組と五條の人々

平成二十五年七月二日(火)〜九月二十九日(日)

〒637-0016 奈良県五條市近内526 ☎とFAX 0747(22)4013

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人・NPO 法人うちの館(やかた)

月曜日休館・午前9時～午後4時 大人300円・小人200円

「藤岡家住宅」平成25年秋の展示

天誅組大和義挙150年記念展示

浮世絵「古地図」～絵図から辿る天誅組と五條の人々～

期間 平成25年7月2日（火）～9月29日（日）

会場 登録有形文化財「藤岡家住宅」展示室

月曜日休館 月曜が祝日のときは開館して翌日休館。午前9時～午後4時。

大人300円・小学生まで200円・6才未満は無料

文久3年（1863）久留米（くるめ）出身の真木和泉（まきいずみ）らのたてた攘夷親征計画を受け、朝議が8月13日（旧暦）に大和行幸を決定したことを機に土佐出身の吉村虎太郎（とらたろう）と土佐、因幡（いなば）、久留米などの脱藩士が中心となり、元侍従中山忠光（ただみつ）を擁して天誅組（天忠組ともいう）を結成し、大和挙兵を謀りました。一行は8月14日に京都を出発し、大坂、堺（さかい）、河内（かわち）を経て大和に向かい、17日に五条代官所を襲い、代官鈴木源内以下5名を殺害。櫻井寺を本陣として、倒幕の旗を挙げました。翌18日、京都の政変によって攘夷派は排除され、朝議は一変して大和行幸が中止されます。ここで、天誅組はその大義名分を失ってしまいました。その後天誅組は急いで十津川郷士（とつかわごうし）の糾合に努め、26日には募ったほぼ1000人の郷士を率いて高取（たかとり）城を攻撃しましたが、撃退され、大日川、広橋、栃原、下市口と吉野各地を転戦しますが、追討軍は1万人を超え、内部の対立、十津川郷士の離反もあり、9月24日、東吉野村鷲家口において決死的斬り込みを敢行して終わりを遂げました。

藤岡家は金剛山麓の近内にある庄屋敷です。江戸時代の古地図や家の図面、戦前に書かれた家人の文章などをみますと、金剛山から五條に入る3本の道は1本にまとまって藤岡家の中を通りぬけていました。五條から金剛山詣りをする人々や、金剛山を経由して大阪や和歌山へ出ていく人と物の流れを、ちょうど関所のように管理していた家と思われるが、天誅組は、藤岡家が管理していない金剛山越えの道を通って五條に入っています。金剛山へ向かう道のすぐ角に近内御霊神社と八幡宮があり、その般若蔵（経蔵）には「五條御役所 天忠中山」と墨書されていました。塗りつぶされて今は見えなくなった文字の写真をネガから起こし拡大した写真で展示します。幕末の当家の女主人であった藤岡タイさんが天誅組を見たという話を藤岡玉骨が「芸芸春秋」（昭和16年3月特別号）の中に書いていますが、天誅組が伐った代官たち5人の首級をたまたまそこにいた藤岡家の手代伊平が戸板に乗せて櫻井寺まで運ばされたエピソードなども書かれています。

藤岡家住宅所蔵の品々を中心に江戸から明治に変化していく時代の五條の人々に関わる下記の資料などを展示し、天誅組の変とは何かを考えます。

今回の出展資料・「高谷山古地図」（延宝6年・1678）・「藤岡家見取り図」百分の一図、二百分の一図 ・「西の丸普請二付 冥加金 五十両 受け取り証」（天保11年・1840）・「小林金芝等 屏風」（文久元年・1861～文久2年・1862 製作）五條の医師 小林金芝等8名の揮毫。・「御本丸御普請 年賦上納金 金三分一朱」（文久元年・1863 10月14日）
「宇智郡村々荒地高改帳」（文久3年・1863）・「籌薪書上帳」「五條村 今井村人足書上帳」「今井村入用人足書上帳」（文久3年）・「五條代官中村勘兵衛 近隣の村々より兵を募り鉄砲稽古の図」（慶応3年・1867）・「五條の掲示 第一札」（慶応4年・1868 3月）太政官 ・樽井藤吉「明治維新発祥記仮綴」（大正8年5月） ほか

登録有形文化財「藤岡家住宅」・NPO法人 うちのの館

〒637-0016 奈良県五條市近内町526 ☎とFAX 0747（22）4013